

令和2年度 事業実施報告

事業名	リレー見学会② 淀川河口域
日時	令和2年10月16日（金）10時から15時
場所	淀川河口域（毛馬～河口）
参加者数	15名
概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毛馬周辺施設等の見学（淀川河川事務所毛馬出張所長・前田 竜治 氏 他，職員の案内） 眼鏡橋・長柄運河跡・毛馬第一閘門遺構（国の重文）・淀川改修紀功碑・沖野忠雄胸像・毛馬洗堰遺構・毛馬排水機場・毛馬水門・毛馬閘門・淀川大堰 〔以下，マイクロバス1台で移動〕 2. 淀川大堰管理橋（渡河）・魚道見学，柴島再生干潟，西中島ヨシ原・十三干潟、淀川大橋（北詰・淀川陸閘）、大塚切れ洪水碑・阪神陸閘・伝法陸閘・阪神なんば線付け替え工事（伝法大橋上より） 3. 大阪市漁業協同組合の福町漁港にて総務次長・販売事業統括 畑中 啓吾 氏より大阪湾・淀川の漁業実態についてのレクチャーを受ける。 4. 矢倉緑地（淀川右岸河口 距離標 0kp の確認，神崎川河口干潟の見学） 講師（淀川大堰以降の現場案内）：河合 典彦（淀川環境委員会委員、BY ネット幹事）
実施結果	<p>毛馬の関連施設では、新型コロナウイルス感染症対策のため室内での講義を避け屋外での見学を中心に実施した。また、マイクロバスの利用については、車内での密を避けるため参加人数を15名に留めた。通常は通行できない淀川大堰の管理橋を所長のご案内で渡りながら、上からゲートや魚道を見学することで構造についての理解が深まった。また、潮汐の干潮時刻と見学時刻を合わせることで干潟環境を間近に見ることができた。</p>
資料	 <p>毛馬排水機場にて</p>  <p>柴島再生干潟</p>  <p>大阪市漁協職員からの説明</p>
ふりかえり	<p>淀川河口域（距離標 0kp～9.8kp）は、1885(明治18)年の淀川大洪水を契機に、紆余曲折を経て淀川改良工事によって開削され110年前に完成した放水路です。旧淀川（大川）と分岐する毛馬には、歴史的に見ても現在まで淀川における重要な河川管理施設がいくつもあり、歴史的な遺構と併せて現在の治水・利水施設が集中している場所です。一方、淀川河口域は、100年以上の歴史の中で形成された広大なヨシ原や干潟は、淀川の貴重な生物多様性を支える環境として機能しています。しかし、大阪湾までの放水路としての淀川は、治水に重要な役割を果たしていますが、淀川を流れてきた水は基本的には大川への安定的（約70m³/s）な利水配分が決められていて、淀川の流量が少なくなると毛馬水門からの大川への放流が優先されるため、河口域の塩分濃度が高くなり過ぎるという課題も抱えています。</p>